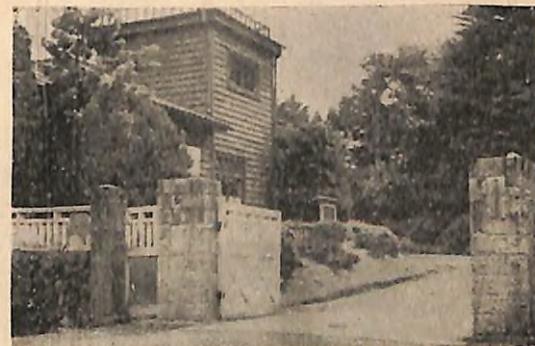


受入ID- 1520030116B00156



業試驗場測量場要覽

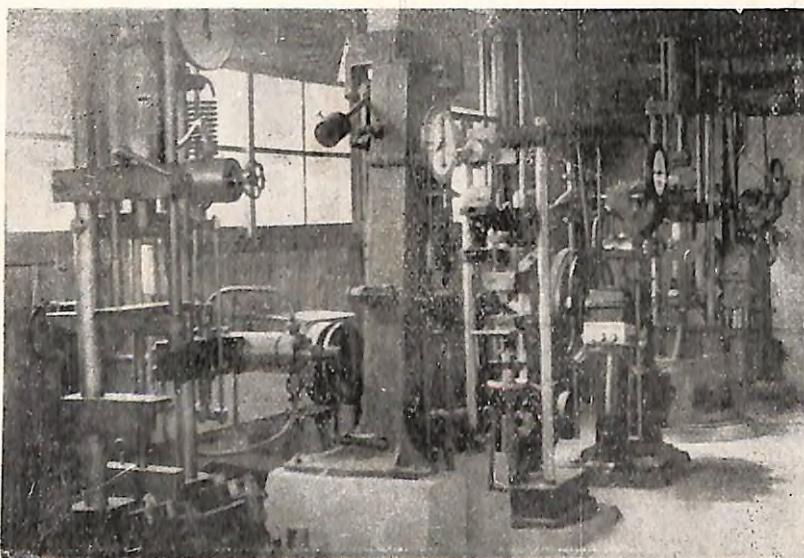


02000-00130749-3

昭和24年6月

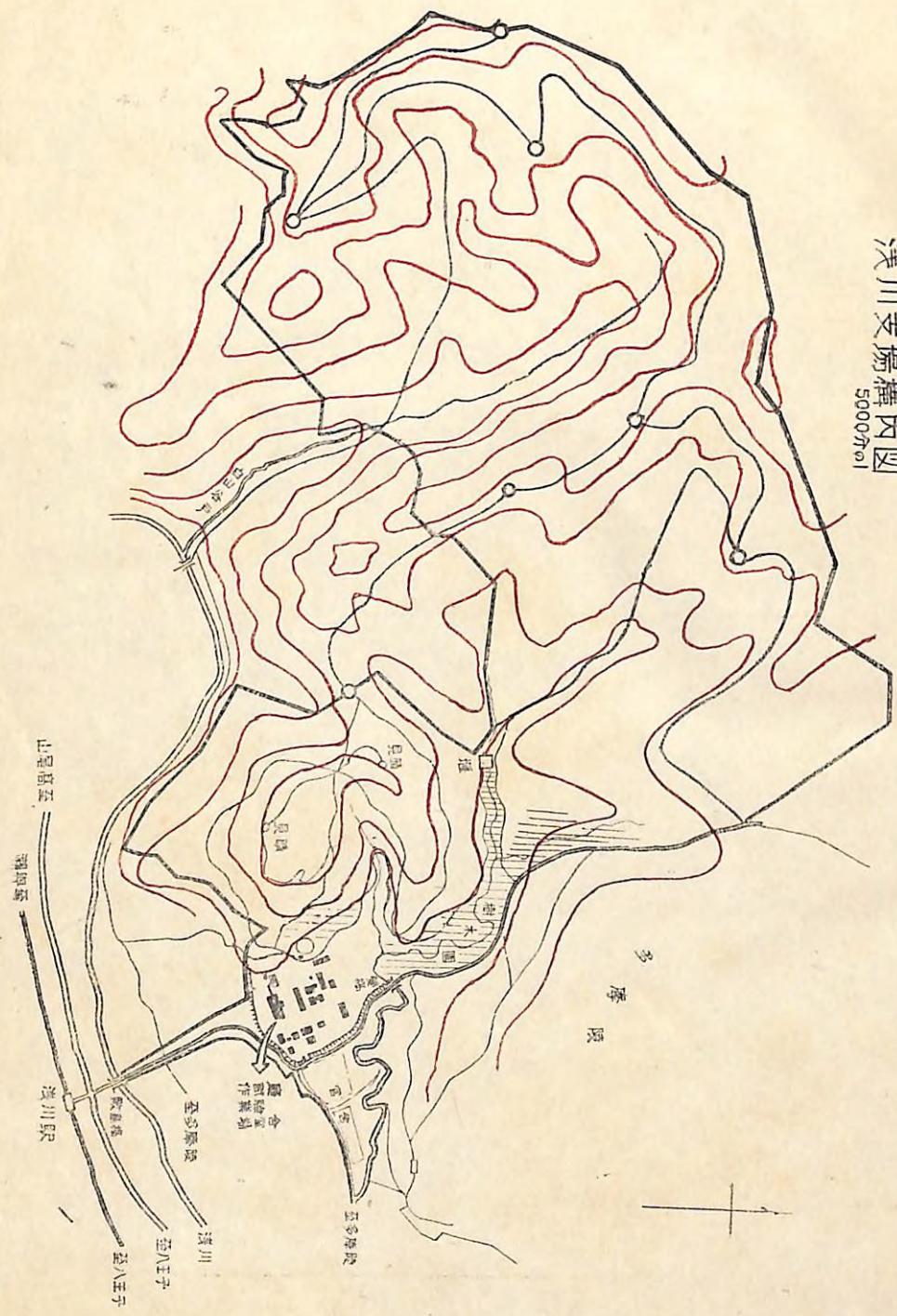


場内の樹木園の一部



材質改良研究室

渋川支場構内図
5000ft. 1:10000



目 次

1 位 置	1
2 目 的	1
3 沿革及組織概要	1
4 氣象の状況	2
5 地質及び地勢	3
6 樹 木 國	4
7 鑑定並指導事項	5
8 研究室の概要	6
9 試験研究成績	8

試験場概要

林業試験場淺川支場

位 置

林業試験場淺川支場は都心より西へ僅か五〇軒に過ぎない交通至便な緑濃い一丘陵の中腹に位し、その地籍は東京都南多摩郡横山村大字下長房廿里に屬して居る。（自新宿驛至淺川驛所要時間一時間、自淺川驛至支場徒步五分間）背後にアカマシ、モミ、ヒノキ等の天然針葉樹林を負ひ冬季の寒風を防ぎ、東は多摩陵に隣接し西に靈山高尾の山頂を仰ぎ眼下に淺川の清流を望んで夏は涼風、新緑の香に秋は紅葉の錦に包まれ眺望轄然として武藏野を一眸の中に聚め得る雄大の地である。

目 的

當支場は本州中部關東地區に於ける林業の地方的な特殊問題並に林業全般の科學技術に關する應用研究、即ち立地環境、育種、育苗更新、害虫、害菌の驅除豫防方法及び木材の理化學的性質と林產物の利用等専ら實地を主とした試驗研究をなすことと共にその指導普及を行ひ併せて國民に愛林思想の徹底を計るを以て目的とする。

沿革及組織の概要

當支場は元帝室林野局東京林業試験場と稱し宮内省に所屬して居たが戰後御料林の國有移管に伴ひ農林省林業試験場支場となつた。

その沿革の概要は次の通りである。

一、大正十年二月十六日 帝室林野局林業試験場の設置と附屬地として小佛事業區が指定され帝室林野局業務

課長技師和田國次郎場長兼任を命ぜられる。

一、大正十年十月七日 千葉縣君津郡戸崎、法木、鬼泪山御料地を附屬地として追加指定される。

一、大正十一年七月一日 東京都日野並に喜多見御料地が附屬地として追加指定される。

一、大正十一年十一月十一日 開廳式を擧ぐ。

一、大正十三年四月九日 帝室林野局東京支局長技師佐々木和策場長兼任を命ぜられる。

一、大正十四年十二月十九日 帝室林野局技師中村賢一郎場長心得昭和三年十二月場長を命ぜられる。

一、昭和十五年一月一日 帝室林野局北海道林業試驗場の創設に伴ひ帝室林野局東京林業試驗場と改められる。

一、昭和十六年十一月二十八日 帝室林野局技師長谷川孝三場長を命ぜられる。

一、昭和二十二年四月一日 林政統一に伴ひ林業試驗場淺川支場と改められ廿里國有林約五十町歩を附屬地として指定される。

一、昭和二十二年六月二十三日 淺川支場は東京、前橋、名古屋、長野四營林局と直結して國有林の試驗研究機關たる役割を持つことになった。

氣象の状況

當氣象觀測所は大正十二年設立され其の位置は北緯三十五度三十九分 東經百三十九度十七分 海拔一八三、四九メートル。當所の昭和廿三年(除く廿、廿一年度)迄の觀測値を示すと次の通りである。

風		氣温		湿度		降水量							
平均風速 米/秒	最高風速 米/秒	平均風速 米/秒	最高風速 米/秒	最高風速 米/秒	最低風速 米/秒	較平均風速 米/秒	高極低極	日平均	最高平均風速 米/秒	日平均風速 米/秒	最高風速 米/秒	年合計耗水量 公升	日最大耗水量 公升
三七	一八・四	八・二	二〇・三	三・四	二・〇	二・〇	六・三	六・三	一九・六	一九・六	一九・六	二七〇・六	三三・七
風向 (六方位)	快晴	曇天	霜	雪	雨	二七〇・〇	二七〇・〇						
日照時數 合計	蒸發量 (耗)	日照時數 合計	蒸發量 (耗)	日照時數 合計	蒸發量 (耗)	日照時數 合計	蒸發量 (耗)	日照時數 合計	蒸發量 (耗)	日照時數 合計	蒸發量 (耗)	日照時數 合計	蒸發量 (耗)
一九 云 W	二九 云 W	二九 云 W	二九 云 W	一九 云 W	一九 云 W	一九 云 W	五・〇	一・六	七・六	二・〇	一・三	二・〇	一・三

之れを東京都(中央氣象臺)の其れと、比較すると氣温に於ては常に攝氏一度位ひ低く。濕度は稍々高い。年降水量に於ては二〇〇耗位多い。最多風向は西と平均風速の弱い等は山岳森林及び局地の影響と考へられる。

地質及び地勢

當支場附近の地質の概要を觀ると悉く水成岩であつて、概ね小佛層に屬するもので地質學上有名な小佛層は小佛山脈の山骨をなして其の岩層は北西より東南に亘り方形に劃して、北は秩父古生層に接し、南は相模の南部に及んで居るが、津久井郡方面に於ては第三紀層によつて被覆されている。而して該層を構成する岩石は粘板岩及び硬砂岩の二種類にして互ひに異層し、粘板岩の量は常に硬砂岩に數倍しているが、當場を若干離れた小佛附近に於ては粘板岩の露出多く硬砂岩が極めて少量介在する。

粘板岩は黒色を帶び岩質を抱き薄片に剝落する性質を有する白色石灰の脈絡を通する事が多い。

硬砂岩は其の組織細粒若くは、中粒であつて灰緑色を帶び珪質に富み硬密にして、往々珪岩に變じたものを見ることがある。小佛層は地質學上相當問題視されている層であつて、時代については小佛古生層と呼ばれている地層群であるが、最近は古生代のものとは考へられなくなり今だに種々な説があつて明らかでない。

地勢は概して丘陵地であつて険阻地は少なく、附近的土性は埴土及び輕埴土が多く一部壤土、埴壤土が川添へに出現している程度である。

樹木園

樹木園の地域が多摩陵域に編入されたので昭和二年春、試驗場廳舍上より多摩陵域裏に至る山腹を選び、舊樹木園の樹木を移植したもので現在は第一、第二、第三に分たれ内國産樹種としてはウラジロモミ、トドマツ、ヒメバラモミ、ヒメコマツ、テウセンゴヨウ、ネズコ、ウダイカンバ、イチイガシ、ウバメガシ、ノグルミ、シナノキ、ハナノキ、マメザクラ等三百餘種に及び外國樹種としては、セコイヤ、センペルビレンス、クプレス、ペントナリー、オレゴン・パイン、カナダツガ、リギダマツ、テーグマツ、ヒマラヤゴヨウ、ダイオウショウ、ヒマラヤシーダー歐洲トウヒ、歐洲アカマツ、歐洲モミ、ビンオーラク、アメリカフウ、アメリカトネリコ等數種に及び創設後二十數年を経たので各樹種共種類特有の樹容を顯し、既に着果し交配試験等にも利用されている。

又樹木園の一部及構内に六十有餘品種のサクラ、ツ、ジを植栽し花時人目を引いている。

更に樹木の生長と更新に關係深き草本蘚苔類に至る迄、よく保存管理し生物學及び林業上参考に供する様心がけて居る。尙上記樹木園の他に廿里國有林地に次の如き樹種を約一反歩宛植栽して各林木の單純林の形態を觀察し、且つ之が土壤に對する影響等を調査するのに便ならしめてある。

主な見本林樹種は、ホ、ノキ、サワグルミ、イチヨウ、キハダ、クリ、ケヤキ、ヤマナラシ、黄金樹、クヌギ、大島桑、ミズナラ、エンジユ、カシハ、カツラ、マカンバ、シラカシ、イタヤカヘデ、ヌルデ、ハリギリ、ヤマウルシ、トチノキ、シナノキ、クス、ウバメガシ、モミ、北山臺杉、タウヒ、アカマツ、カラマツ、テウセンマツ、落羽松（ヌマスギ）、佛國海岸松、ニホイヒバ、歐洲アカマツ、センペルセコイヤ、ティダマツ、ハンテンボク等である。

更に當地帶の天然林は此の地特有なモミを主林木とし、峯通りにアカマツを交ゆる林相を呈し、植物帶上の位置は恰も暖帶林より温帶林に推移する接觸地點に位し、植物樹木の種類が豊富なることは近郊稀で珍種稀品多く林學上並に植物分布上幾多の價値がある。

鑑定並指導事項

當支場に於て森林經營のため直接必要な研究をする外、營林局署並に一般林業關係機關の要請に依り鑑定其の他に協力して居る主なる事項は凡そ次の通りである。

- 林木種子の鑑定並に貯藏法に關する指導
- 植物分類の指導
- 植生に關する指導
- 不良造林地改良に關する指導
- イザリヤコガネ菌其他數種の天敵菌の實驗應用に關する指導
- 野鼠の驅除に關する指導

- 森林病害の鑑定並に駆除豫防に關する指導
 - 松喰虫其他森林害虫の鑑定並に駆除豫防に關する指導
 - 根瘤菌密化精練菌の配布並に其の指導
 - 森林火災警防に關する指導
 - 建築及製炭に關する指導並に炭質の鑑定
 - 木材乾溜と產物利用に關する指導
 - 合板及纖維板に關する指導並に材質の鑑定
 - 簡易乾燥法に關する指導
 - 其他當場で考察したものに關する指導
- 研究室の概要**
- | | | |
|-----------|--|--------|
| 1種子研究室 | 室長小山良之助 | 副岩田善三 |
| 研究事項 | 林木種子の結實、採取、精選、貯藏、發芽鑑定等 | |
| 2育林研究室 | 室長草下正夫 | 副野原勇太 |
| 研究事項 | 育種、育苗、更新、撫育、森林生態等 | |
| 3気象研究室 | 室長井上桂 | 副齊藤幹夫 |
| 研究事項 | 微氣象更新環境、病虫害發生環境、山火事、風と森林の關係等 | |
| 4土壤研究室 | 室長中元六雄 | 副木村八郎 |
| | | |
| 5蟲害研究室 | 室長中野博正 | |
| 研究事項 | 森林害虫の分類と生態、天敵昆蟲類の検索と増殖林内鳥類の生態、並に野鳥類の増殖 | |
| 6樹病研究室 | 室長野原勇太 | |
| 研究事項 | 苗畑及林地の一般病害の検索、罹病經路、拮抗菌、薬剤による防除 | |
| 7天敵菌研究室 | 室長長谷川孝三 | 副小山良之助 |
| 研究事項 | 森林害虫、野鼠、野兔等の天敵病原菌の検索、培養及之が實施應用 | |
| 8材質改良研究室 | 室長堀岡邦典 | 副雨倉朝三 |
| 研究事項 | 木材の耐温處理法、木材簡易乾燥、木材耐久性向上法、合板並に接着剤 | |
| 9人工材研究室 | 室長村田藤橋 | |
| 研究事項 | 人工材、木材等の理學的性質 | |
| 10木材化學研究室 | 室長立木勝蔵 | 副安江保民 |
| 研究事項 | 木材組成、バルブ、紙の製法及び品質の向上、バルブ液及び林産副産物の利用 | |
| 11炭化研究室 | 室長三宅勇 | 副杉浦銀治 |
| 研究事項 | 木材の炭化、炭化生産物の利用 | |
| 12生理化學實驗室 | 室長立木勝蔵 | 副大久保良治 |

研究事項 樹木の營養と生成物の關係、驅除薬剤

13 調査室 宝長草下正夫 副雨倉朝三

14 國有財産管理 附屬地經營主任（其他に屬せざるもの）

萩原隆文

15 底務・會計 主任田中繁次

16 用度 主任松岡黙道

試驗地

1 白河試驗地（福島縣白河町）

主任井上桂

2 寶川試驗地（水上營林署管内藤原事業所）

主任木暮保（前橋營林局）

現地主任熊谷鐵之助

3 小根山試驗地（前橋營林署小根山國有林）

主任中元六雄

4 岩村田綜合試驗地（岩村田營林署管内淺間國有林）

主任中元六雄

5 八曾林地改良試驗地（岡崎營林署管内八曾國有林）

主任木村八郎

6 金子村天然更新試驗地（東京都西多摩郡霞村）

主任草下正夫

試驗研究成績

當支場開設以來甚多の調査研究を行ひ其の主なる成績はあらゆる機關を通じて其の都度發表している。

その中實施應用せられているもの二十餘種に及んでゐる。因に既刊行物及び他の機關誌などを介して發表したものは概ね次の通りである。

1 研究報告

發表年度 試驗研究項目

大正十四年	試業による林木種子發芽率鑑定法	林業試驗報告 一卷一號
同	スギ赤枯病豫防試驗	同
同	ヒノキの穿孔虫	同
同	熱湯に依る虫害栗實の處理	同
大正十五年	木曾御料林產主要樹種の木材質に關する試驗	同
昭和三年	林木種子の自給と其の注意	同
同	四年 氣象の影響が同一樹種の材質に及ぼす影響	同
同	五年 ヒノキ、サハラ造材に關する干劑調査	同
同	同 林木種子發芽力の微生物的研究	同
同	七年 ヒノキ材に關する材質の生植物的調査	同
同	八年 本邦產主要針葉樹材の化學的性質による識別	同
同	九年 ヒノキに關する材質の生植物的調査	同
同	十年 簡易ソーダ木材ペルプ製造法に就て	同
同	三卷一號	三卷一號
同	二卷一號	二卷一號
同	二號	二號
同	六號	六號
同	五號	五號
同	四號	四號
同	三號	三號
同	二號	二號
同	一號	一號

昭和十年 スギ人工林土壤酸度並びに鹽基飽和度に就て
同 十一年 森林害虫の病源に關する測定並びに其の應用價值
同 十四年 森林害虫の生物學的驅除特に虫寄生病原體應用に關する研究

同 十七年 落葉に關する二、三の研究

同 十八年 林木種子の活力に關する實驗的研究

同 十九年 林木種子の活力に關する實驗的研究

同 十八年 バルブの腐敗に關する研究

同 十七年 林木種子の活力に關する實驗的研究

同 十六年 森林害虫の生物學的驅除特に虫寄生病原體應用に關する研究

同 十五年 森林病虫害圖說 病害編 一號（昭、一三）二號（昭、一四）三號（昭、一五）四號（昭、一七）五號（昭、一九）
同 同 同 昆蟲編 一號（昭、一一）二號（昭、一二）

3 業務資料

昭和十二年 業務試料 第一號 簡易曹達木材バルブ製造法に就て

同 十三年 同 同二號 還元法種子還定紙使用法

同 同 同 同 同三號 マツケムシの病原體と其の應用的價值に就て

同 同 同 同 同四號 管類枯殺用創製粉末合劑の調製法と其の効果

同 同 同 同 同五號 製油の採集に就きて

同 十六年 同 同 六號 病原體應用コガネムシ驅除法

同 同 同 同 七號 被害微候に基く森林病虫害の識別法

同 同 森林資源愛護、附、高尾山國有林地附近の木本植物
4 他の機關誌をかりて發表したもの

發表年度 試験研究項目

大正十四年 木材の收縮膨張試験

同 種子の數量単位改正

昭和三年 ヒノキ成長試験

同 スギ、ヒノキ生長休止期間に於ける伐採と剥皮試験

同 林木種子貯蔵中觀察したる二三の微生物に就いて

同 移動式簡易鑽索運搬機

同 樹下植栽試験

同 森林火災警報施設

同 ヒノキ苗木の表裏試験

同 樹葉量が年輪密度に及ぼす影響

同 八年 太陽日射の算出圖の作成

同 同 木曾ヒノキ人工林の土壤酸度に關する調査

同 九年 種子精選法

發表誌名

林學會誌 二十七

林學會誌 二十八

林學會誌 二十九

林學會誌 三十

林學會誌 三十一

林學會誌 三十二

林學會誌 三十三

林學會誌 三十四

林學會誌 三十五

林學會誌 三十六

林學會誌 三十七

林學會誌 三十八

林學會誌 三十九

林學會誌 四十

林學會誌 四十一

(グリューアソーダに就いて) 第一報

日本林學會 三十卷一一二號

昭和二十三年 (繊維素キサントゲン酸曹達に就いて) 第二報

日本林學會 三十卷一一二號

昭和二十三年 木酸液應用に依る竹蒸解液

日本林學會 三十卷一一二號

木村乾溜油より塗料の製法に就いて

日本林學會 三十號

フルフラールより活性炭素の生成に就いて

日本林學會 論文

鋸屑使用可望物に就いて豫報

日本林學會 論文

竹腐化精練によるバルブ製法並に抄紙試験に就いて

日本林學會 論文

木酸液應用による製紙用竹繊維採集法並に強度試験に就いて

日本林學會 論文

木酸液應用による竹バルブ製法並抄紙試験に就いて

日本林學會 論文

アカマツ寄生穿孔虫類の生態的研究

日本林學會 論文

昭和二十四年 雜草に依る苗畠地力の判定に就いて

日本林學會 論文

枝葉伏込の効果について

日本林學會 論文

マツノキクヒの越冬と防除

日本林學會 論文

穿孔虫類による松の被害樹型

日本林學會 論文

コガネムシの生態氣候的防除に就いて

日本林學會 論文

苗畠に於ける針葉樹種苗の立枯病防除に關する研究
林木遺傳に關する研究、ヒノキ、サクラの第二代雑種に於ける研究

日本木材加工技術協会 二四〇一

合板の接着力向上研究に就いて
グイスコース接着剤

日本林學會 論文

5 考案したもの

出願年度

特許又は出願
受理月日特許又は出願
受理番號

名稱

名

植物種子の活力検定紙

a 昭和八年 昭一〇・四・四 一一〇二一三

種子活力検定用金属鹽類吸着検定紙に對する試験紙

日本木材加工技術協会 二四〇一

b 昭和八年 昭一〇・四・四 一一〇二一四

種子活力検定用金属鹽類吸着検定紙

日本木材加工技術協会 二四〇一

a 昭和十六年 昭一八・八・一六 一五八三〇三

種子活力検定用金属鹽類吸着検定紙

日本木材加工技術協会 二四〇一

b 昭和十八年 昭二〇・一〇・一〇 一七〇五三三

種子活力検定用金属鹽類吸着検定紙

日本木材加工技術協会 二四〇一

a 昭和十七年 昭一九・一・一四 一六〇九六一

種子活力検定用金属鹽類吸着検定紙

日本木材加工技術協会 二四〇一

b 昭和二十年 昭二〇・一〇・二〇 一七八八五六

種子活力検定用金属鹽類吸着検定紙

日本木材加工技術協会 二四〇一

c 昭和二十三年 昭二三・九・九 願第 七三八〇

種子活力検定用金属鹽類吸着検定紙

日本木材加工技術協会 二四〇一

d 昭和二十三年 昭二三・九・九 願第 七三八一

種子活力検定用金属鹽類吸着検定紙

日本木材加工技術協会 二四〇一

e 昭和二十年 昭二二・八・一三 一七四七五六

種子活力検定用金属鹽類吸着検定紙

日本木材加工技術協会 二四〇一

木酢バルブ製造法

日本木材加工技術協会 二四〇一

記 事 年 月 日

イ 昭和二十三年	昭二三・九・九	願 第 七三八二	菌類應用樹皮纖維採取法
ニ 昭和十七年	昭二〇・一・一・七	一七一四六三	野 鼠 驅 除 劑
ミ 昭和二十二年	昭二二・二・一・八	願 第 一一八三	溫 級 別 恒 溫 器
Ja 林 產			
Ja 昭和十年	昭二一・一〇・一・八	一一七九九〇	簡易曹達バルブ製造法
b 昭和十一年	昭一二・九・二・四	一一二九七二	バルブ材料としてのチップ製造法
c 昭和十七年	昭一八・五・一・二	願 第 六二四九	曹達バルブ溶液の處理法
d 昭和十七年	昭一八・五・一・二	願 第 六二四八	殺菌殺虫劑製造法
Ja 昭和十五年	昭一六・九・二・〇	一四九五九九	植物質を原料とする輕質油製造法
b 昭和十八年	昭一九・一・一・二・〇	一六八六一二	輕質油製造法
c 昭和二十二年	昭二二・一・二・二	願 第 七八六二	木材乾溜油から塗料製造法
II 昭和二十二年	昭二一・一〇・九	一七六〇一八	酵母膠着劑製造法
ニ 昭和二十三年	昭二三・九・二・九	願 第 七八三〇	澱粉キサントゲン曹達接着劑の製造法
ミ 昭和二十四年	昭二四・五・二	實願第五一四一	乾燥室用乾溫球計の自動給水装置
Ja 昭和二十四年	出 願 中		木村中のベントーザンを利用する特殊防腐處理法

考

記號 I・II・III……は夫々事柄の違つたもの

同一記號で a・b・c……であるは一つの事柄に關聯を持つたものである。